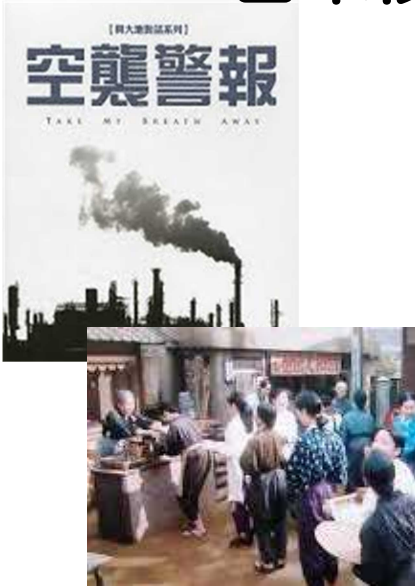


「Jアラート」と聞きなれないことばを耳にするようになってきました。「戦前の空襲警報」を思い出す方もおられますが、今回、長年にわたりアメリカ政府の機密文書から、日米両政府の核政策を分析・告発されてきた高橋博子さんに、「Jアラート」を考え、日米の核・被ばく情報コントロールの秘密のヴェールをはがしていただきます。

『核アラート』を考える —日米核情報コントロールの『闇』—



1950年代のアメリカでは「アラート・アメリカ」として、民間防衛計画の下、国民に対して「もぐって身を隠す」のが核攻撃への対策とされた。現在日本では「Jアラート」の発令の下「ミサイル防衛訓練」を学校や自治体で徹底させようとしている。双方とも被爆の実相を隠蔽した上で編み出された、日本政府やアメリカの核開発の責任者による対策がベースとなっている。しかし敵への脅威をあおり、核戦争へのハードルを下げているのは、誰なのでしょう？

本講演では、核の非人道性に向き合わず、核兵器禁止条約に反対する、アメリカと日本による核・被ばく情報コントロールの歴史について検証します。

日時：**4月14日(土) 13:30~**

会場：**京都教育文化センター・103号室**

京都市左京区聖護院川原町4-13 Tel:075-771-4221

講演：**高橋 博子さん**

(名古屋大学大学院法学研究科研究員)

参加費無料

※なお、公開講座終了後、15:00から同会場で非核の会第29回定期総会を開催いたします。会員以外の方の定期総会への傍聴を歓迎します。

《高橋博子さんのプロフィール》

名古屋大学大学院法学研究科研究員。アメリカ史専攻。1969年生まれ。広島市立大学広島平和研究所講師、明治学院大学国際平和研究所研究員などをへて現在に至る。博士号(同志社大学・文化史)。日本平和学会理事。広島平和記念資料館資料調査研究会委員、第五福竜丸平和協会専門委員。第2回日本平和学会平和研究奨励賞を受賞。単著『封印されたヒロシマ・ナガサキ—核実験と民間防衛計画』(凱風社、2012年)、共著『核の戦後史—Q&Aで学ぶ原爆・原発・被ばくの真実』(創元社、2016年)など。